

日高港港湾計画資料

— 軽易な変更 —

平成25年11月

日高港港湾管理者
和歌山県

目 次

I. 変更理由	1
II. 港湾施設の規模及び配置に関する資料	2
1. 小型船だまり計画	2
III. 港湾の効率的な運営に関する事項	4
IV. その他の資料	4
1. 環境の保全に関する検討	4
2. 地方港湾審議会名簿	5

I. 変更理由

- ・プレジャーボートの大型化に伴う係留施設の不足及び水域施設の水深不足を解消するため、西川地区において、小型船だまり計画を変更する。
- ・港湾の効率的な運営に関する事項を追加する。

Ⅱ．港湾施設の規模及び配置に関する資料

1. 小型船だまり計画

(1) 小型船だまり計画の必要性

和歌山県の公共水域（港湾・河川・漁港・海岸）においては、プレジャーボート等の放置艇による船舶航行の支障・騒音・違法駐車・ゴミの投棄・景観悪化の問題等が顕在化している。

今回計画をした日高港西川地区の水域施設及び係留施設について、船長11m以上の船舶に必要な水深を確保できていないため、現在、西川地区周辺各箇所にも多くのプレジャーボートが放置されている状況である。

これらの問題を解消するため、今回、西川地区にプレジャーボートを係留するための小型船だまりを計画する。

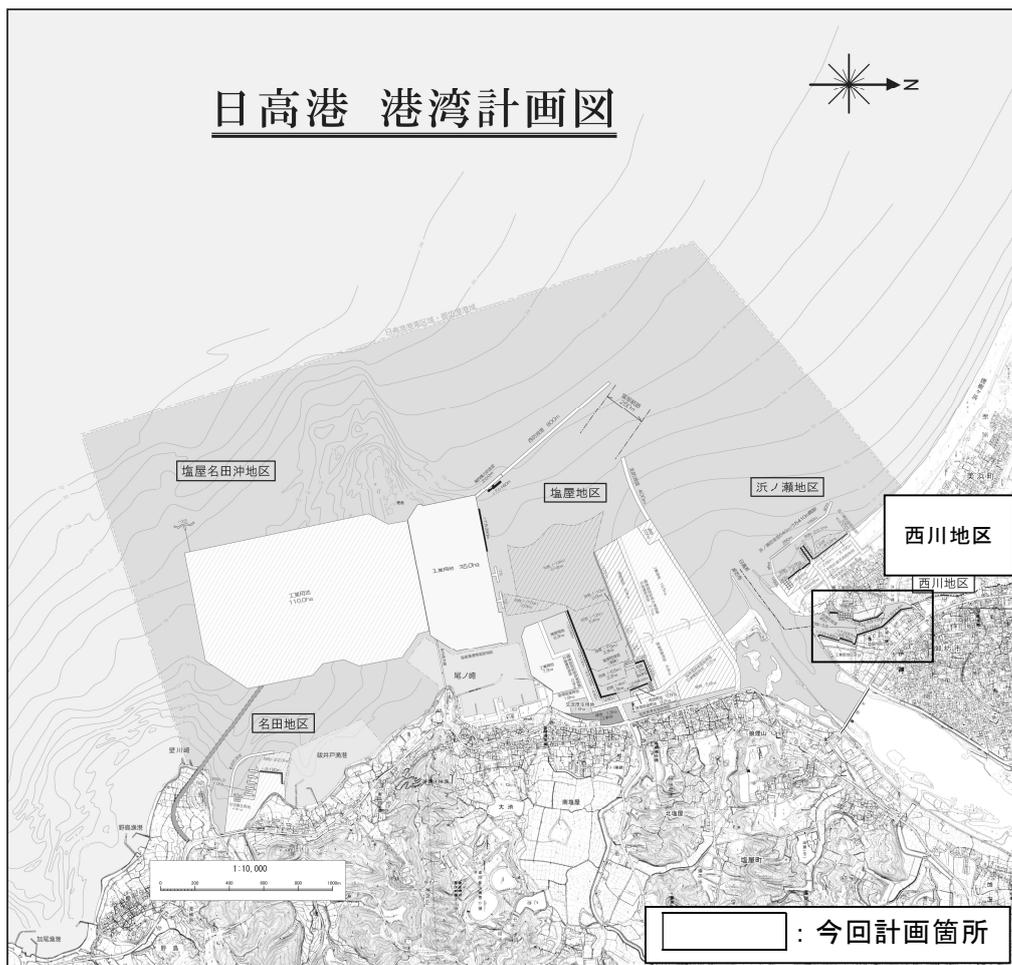


図 2-1 小型船だまり計画位置図

(2) 小型船だまり計画の規模及び配置

小型船だまり計画の規模及び配置は、次のとおりである。

表 2-1 小型船だまり計画の概要

地区名	施設種類	内容	対象船	備考
西川地区	泊地	(-2m) 1.0ha	プレジャーボート	新規計画
	物揚場	(-2m) 214m	15 隻	既設の変更 計画

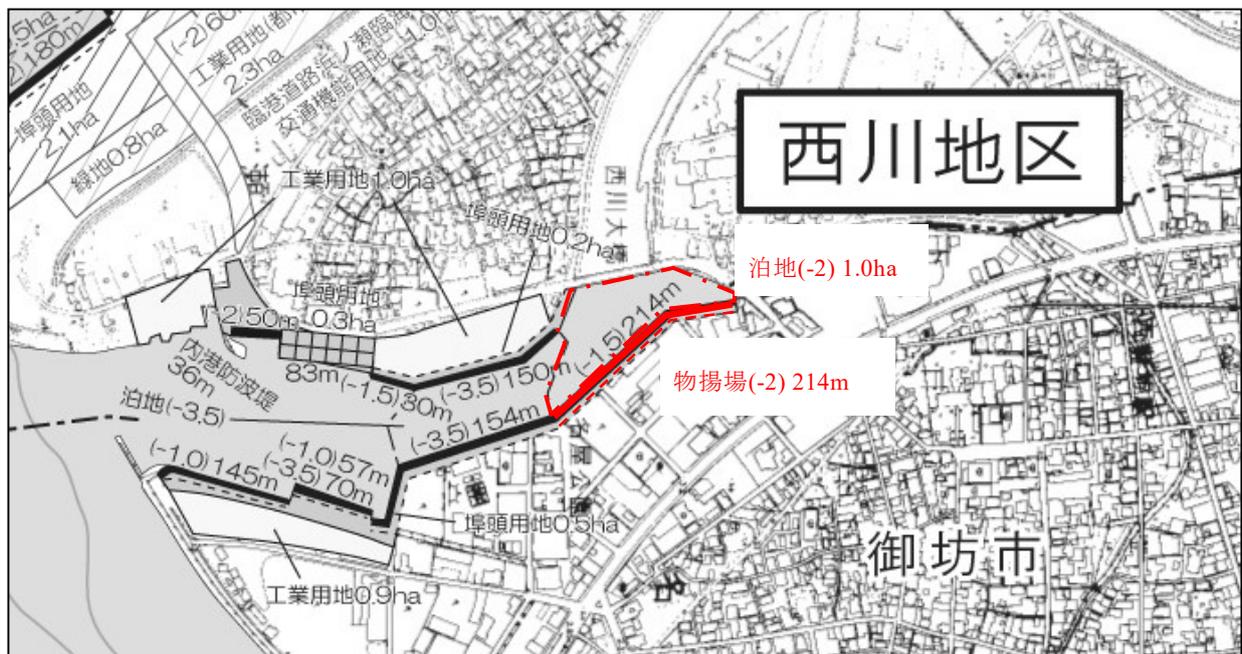


図 2-2 施設配置図

Ⅲ. 港湾の効率的な運営に関する事項

日高港において、港湾利用やサービス向上を図るため、港湾利用者のニーズを十分に把握し、効率的な運営体制の確立に取り組む。

Ⅳ. その他の事項

1. 環境の保全に関する検討

今回の計画は、地形変化が少なく、新たに生じる環境負荷もほとんどないため、大気質・生態系・景観等への影響は軽微なものとする。また、潮流・水質及び底質に与える影響も軽微であるため、周辺漁業に与える影響はほとんどないと考える。

以上のことから、今回の計画は、環境に与える影響は軽微であるとする。

2. 地方港湾審議会名簿

和歌山県地方港湾審議会委員名簿

平成 25 年 11 月現在
(敬称略、順不同)

委員の種類	氏名	職名
第 1 号	黒田 勝彦	神戸大学名誉教授
	濱田 學昭	NPO街づくり支援センター代表・元和歌山大学特任教授
	辻本 勝久	和歌山大学経済学部教授
	藤澤 祥子	和歌山信愛女子短期大学非常勤講師
	谷 奈々	和歌山社会経済研究所研究委員
	千森 督子	和歌山信愛女子短期大学生活文化学科教授
	小池 信昭	和歌山工業高等専門学校環境都市工学科准教授
	和田 聡子	大阪学院大学経済学部教授
	第 2 号	小林 道明
西村 雅臣		和歌山港運協会会長
高宮 成昭		全日本海員組合大阪支部長
橋本 孟士		和歌山下津水先区水先人会会長
吉田 擴		御坊商工会議所会頭
中川 藤吉		日高木材協同組合理事
三宅 貴久		和歌山県港湾協会副会長
木下 吉雄		和歌山県漁業協同組合連合会代表理事会長
若林 伸男		和歌山港湾福利厚生協会理事長
第 3 号	大橋 建一	和歌山市長
	神出 政巳	海南市長
	望月 良男	有田市長
	柏木 征夫	御坊市長
	森下 誠史	美浜町長
第 4 号	山田 正彦	和歌山県議会議員
	森 礼子	和歌山県議会議員
第 5 号	山田 秀樹	大阪税関長
	大久保 仁	近畿運輸局長
	大橋 功	田辺海上保安部長
	谷延 京一	和歌山下津港長
	池内 幸司	近畿地方整備局長
第 6 号	下 宏	和歌山県副知事